

## ドキドキしたけど楽しかった中学校登校

6月21日（火）、小中一貫教育の取組として、6年生の中学校登校を行いました。これは、中1ギャップと言われる小中の差を埋め、小学校から中学校へスムーズに移行することを目的として実施しているものです。

登校後、朝一番はやや緊張した様子が見られましたが、ホームルームで自己紹介をする中で、次第に打ち解けていきました。自然学校での知り合いとの再会を喜ぶ姿もありました。

ランチルームでは、中学校生活についての説明を聞きました。姿勢良く集中して聞く姿に、中学校への意気込みが感じられました。



数学 ハノイの塔に挑戦



中1と合同でドッジボール

中学校の先生に、算数と体育の授業をしていただきました。算数では、「ハノイの塔」と呼ばれる大きさの違う輪が登場しました。指定された条件の移動を最低何回でクリアできるかという問いに、実際に輪を動かしながら、頭をひねって考えました。体育は、中学校1年生との合同、サバイバルドッジや王様ドッジなどで盛り上がりました。

最後は、部活動の見学もできました。先輩たちも良いところを見せようと気合いが入っていたように思います。充実した1日となりました。

### 6年生の感想

中学校の先生がもっとこわいと思ってたけど、思ったより優しくて安心した。

最初は不安だったけど、後から楽しくなってきた。友だちもできたから、よりいい生活ができた。

自己紹介をして、すぐにいろんな人と友だちになりました。

教室がわからなかった時、中3の人が教室まで案内してくれて、中学校の人がとても優しいなど安心しました。

先輩たちが楽しそうにされていたので、次の中学校登校が楽しみになった。

自然学校の時に班が違った人ともしゃべれてうれしかった。

次の6年生登校までに、全員の名前を覚えたい。

体育の時、1年生の声が大きくて尊敬した。私もしっかり声を出したい。

中学校生活に適應できるのかなと思っていますが、楽しみだなという気持ちもあります。

## 広瀬市長 養父市の未来を熱く語る



6月22日(火)、6年生を対象に、広瀬栄市長の出前授業を実施しました。始まってから、かれこれ10年近くなる取組です。市のトップ自らが、子どもたちに直接会って話をしていただけるとても貴重な機会になっています。

広瀬市長からは、新型コロナウイルス感染症に対する取組のこと、人口減少を何とか食い止め人口2万人を維持したいこと、将来ぜひ魅力いっぱい養父市に帰ってきて欲しいことなどの話がありました。

子どもたちは、市長の問いかけに「コンビニや行きたいお店などを増やして欲しい」など、自分の意見を述べていました。生まれ育ったふるさとで、心豊かに暮らすことの魅力が子どもたちに伝わるといいなと思いました。

## 3年生 環境体験学習で大いに学ぶ

6年生は修学旅行、5年生は自然学校、4年生は福祉学習、山の学校、飛行機利用の社会見学と学年に応じた学習を設定しています。

全県で実施されている3年生の「環境体験学習」は、自然環境の中での様々な体験を通して、豊かな心を育むことや確かな学びを深めることをめざしています。

6月20日(月)、朝来市にある「県立内水面漁業センター」を訪れました。ここは、淡水魚の飼育や試験、それを育む環境などについて研究をする機関です。なかなかお目にかかれないヤマメを手づかみでゲット、内蔵の処理も体験しました。炭火で焼いたお魚は最高でした。水槽では、チョウザメなども飼われており、サメと聞いて怖がっていた子どもたちも、サメの仲間ではないと分かって背中に触るなど、現地ならではの体験をしました。



6月30日(木)には、大屋町の上山高原にある宝寿園さんにお世話になり、農業体験をさせていただきました。ピーマンの支柱立てやクリップ止め、大根の種まき、レタスの収穫、トマトの苗植えなど、充実した内容でした。給食時には「野菜を残さず食べよう」と、学んだことがすぐに反映される姿もありました。学校で育てている豆やサツマイモも上手に育ててくれることでしょう。

2つの体験後、「また行きたい」と意欲まんまんの3年生。7月には大屋川の生き物調査、秋には、コウノトリの郷公園にも行く予定です。但馬の豊かな自然を最大限に楽しんで、心豊かに育てて欲しいものです。